



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年12月10日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般:6名

指導員:3名

テーマ 冬鳥は来たかな

そろそろ冬鳥などが多く見られる頃ですが、暖冬のせいか、今季はどうも様子がおかしいようです。ツグミは渡って来ているのですが、市街地ではまだ出会う機会は稀で、シロハラにはお目にかかっていません。木曽川のカモも少ないようで、木曽川橋下流にまだコハクチョウの姿はないと聞きました。そこで、この時期ならでの野鳥を探して回りました。

参加者の一人が、集合場所に来る途中、園内でツグミとシメの姿を見たと教えてくれました。堤防道路に出たところで、エノキの梢に止まっているツグミ数羽の姿がありました。この日、今季初めてツグミを見たという参加者が何人かいました。近くではシメも見られました。一方、毎年見られたアオジ、アトリ、ルリビタキ、シロハラなどは姿を見せませんでした。

また、気温が20℃程まで上がるとの予報なので、成虫越冬のチョウなどが飛ぶことも期待され、昆虫にも気をつけて回りました。

陽当たりのよい草地では、キタキチョウの飛ぶ姿がたくさん見られ、キタテハも出ました。林縁ではムラサキシジミが体温を上げるため翅を広げ、ムラサキツバメやウラギンシジミも出現し、葉に止まってじっとしているツチイナゴも見られました。こうした成虫越冬組は冬でも木の葉の裏などで冬眠しているところが見られます。間もなく命が尽きるベニシジミやヤマトシジミも草原で飛び、池の縁ではコバネイナゴやマユタテアカネの姿がありました。連結飛行をしているアカネ属のトンボもいましたが、種名は確認できませんでした。

途中、クク科の黄色の花が目につきました。セイヨウタンポポは季節知らずで咲きますが、ブタナの花も目立ちました。これも季節にかかわらず咲くのでしょうか。また、ニホンタンポポの花もありました。こちらは春の開花の先駆けでしょうか。また、シソ科のホトケノザとよく似たキレハヒメオドリコソウ(別名モミジハヒメオドリコソウ)が咲いていて、両者をしっかり比較することができました。

この日、川原のヤナギ類が生えていた林が伐採されていました。洪水対策で扶桑緑地辺りから樹木が伐採されていましたが、ついに138タワーパーク北側まで進んできました。野鳥の生息環境に影響が出そうで心配です。

(報告: 齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥: オオタカ、トビ、カワウ、アオサギ、ヒヨドリ、モズ、キジバト、シジュウカラ、メジロ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、コゲラ(声)、ジョウビタキ(声)、ウグイス(声)

虫: ツチイナゴ、ゴマダラチョウ(幼虫)、ヨコヅナサシガメ、ツヤアオカメムシ

花: オニノゲシ、ヒメジョオン、キダチコンギク、コセンダングサ、コバノセンダングサ、カタバミ、オオイヌノフグリ

実: アキグミ、ツルウメモドキ、ユリノキ、アキノレ、トウカエデ、トベラ、サンシュユ、シロダモ



川原にあったヤナギの林が伐採されてしまった



飛んでいたキタテハ



ムラサキシジミの日光浴



葉の上にしたツチイナゴ



キレハヒメオドリコソウ